

釜石労働基準監督署からのお知らせ

令和7年
7月

1 釜石支部主要企業訪問

取材協力：公益財団法人岩手労働基準協会釜石支部

6月4日に株式会社釜石電機製作所様を訪問しました。

株式会社釜石電機製作所

【安全衛生活動】

毎朝社長参加でのミーティングを開催しています。前日までの作業の進捗状況とその作業に伴う安全確認を行っています。また、当日の作業予定についても確認し、その作業に伴う危険要因の確認を行っています。

事前に作業を把握することで、効果的に現場の巡視を行うことが出来ます。

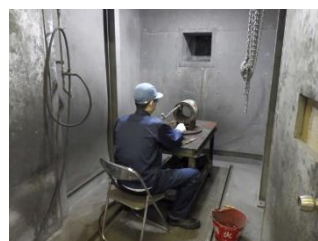
【保護具の適正使用】

モーターコイルバラシ作業では、粉じんが発生するため専用のブースで行います。火気を用いることもあり、専用の消火バケツを備えて作業を行っています。

【作業環境測定】

作業環境測定を年2回実施しており、測定結果は良好です。

専門業者が実際に作業環境測定をしている状況を従業員に見せることで、自分の普段の作業の理解を深めています。排気場所、作業方法等、危険物への意識の向上につながっています。



【化学物質の管理】

有機溶剤等の危険物は専用の危険物保管庫で管理しています。倉庫内部の整理整頓は徹底しています。

普段は施錠されており、管理者以外の労働者は取り出しが出来ません。

【保護具の管理】

呼吸用保護具、保護メガネ等業務に使用する保護具を支給し、常に予備は保管庫に備えてあります。

在庫が切れることが無いよう管理がされています。

【アルコールチェック】

従業員の健康管理の一貫として、毎朝のアルコールチェックを実施しています。記録を残すことで日々の健康管理の意識も変わります。まだ誰も引かなかった人はいません。

【清掃の徹底】

床面のゴミは、転倒災害のリスクともなります。終業後の一斉清掃で工場内の清掃を行っています。綺麗な職場は、製品の品質の向上にもつながります。



2 労働災害発生状況

令和7年5月末現在（前年同期と比較して7件（28.0%）の増加）

休業4日以上労働災害 32件（前年同期25件）

死亡災害 0件（同1件）

【5月届出の災害事例】

洗車機の調子が悪いいため、電源が入ったまま内部のコンプレッサーの確認をしたところ、稼働していたベルトに巻き込まれた。機械の点検を行う場合は、動力の停止の徹底をお願いします。

3 職場における熱中症対策の強化について（令和7年6月1日施行）

熱中症による死亡災害は、そのほとんどが「初期症状の放置、対応の遅れ」が原因です。重篤化させないための「体制整備」、「手順作成」、「関係者への周知」はできていますか？「#7119」の活用し適切な対応を心がけましょう。

職場における 熱中症による死亡災害の傾向

- ・死亡災害が2年連続で30人レベル。
- ・熱中症は死亡災害に至る割合が、他の災害の約5～6倍。
- ・死亡者の約7割は屋外作業であるため、気候変動の影響により更なる増加の懸念。

ほとんどが
「初期症状の放置・対応の遅れ」

早急に求められる対策

「職場における熱中症予防基本対策要綱」や「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン実施要綱」で実施を求めている事項、現場で効果を上げている対策を参考に、

現場において

**死亡に至らせない（重篤化させない）
ための適切な対策の実施が必要。**

基本的な考え方



判断する



対処する



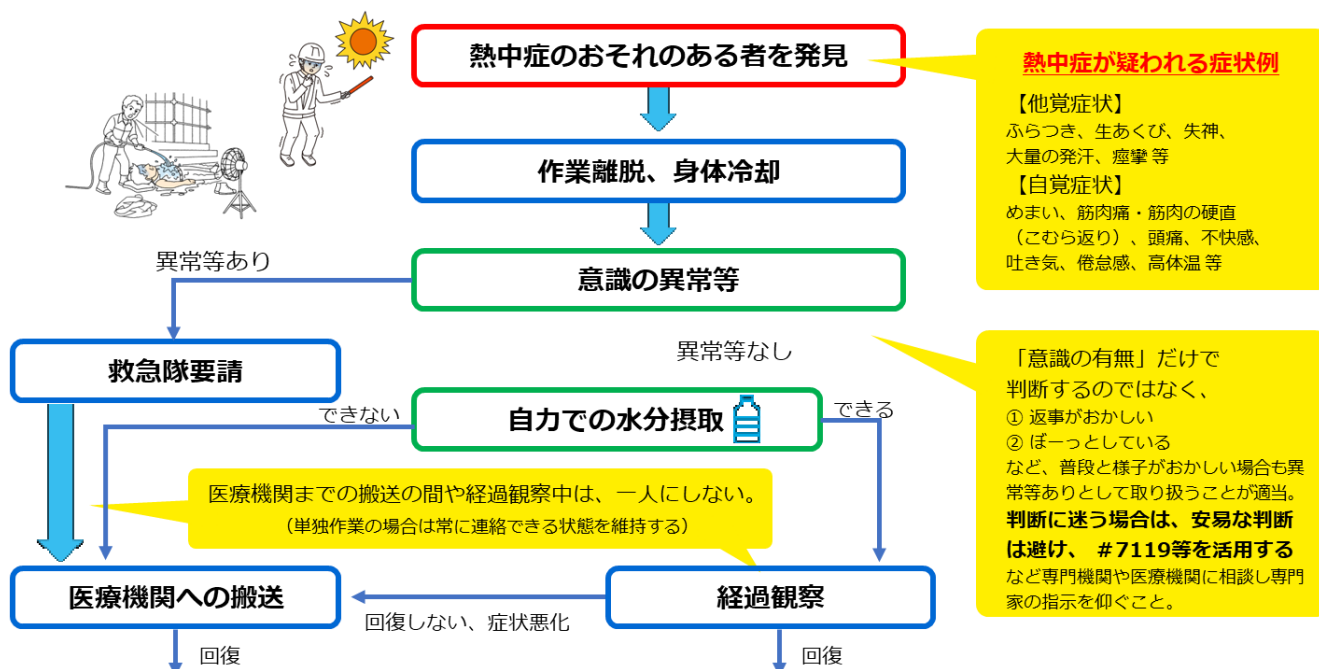
現場の実態に
即した
具体的な対応

現場における対応

熱中症のおそれがある労働者を早期に見つけ、その状況に応じ、迅速かつ適切に対処することにより、熱中症の重篤化を防止するため、以下の「体制整備」、「手順作成」、「関係者への周知」が事業者には義務付けられます。

“いつもと違う”と思ったら、熱中症を疑え

※これはあくまでも参考例であり、現場の実情にあった内容にしましょう。



回復後の体調急変等により症状が悪化するケースがあるため、
連絡体制や体調急変時等の対応をあらかじめ定めておく。